

所長挨拶



宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所
所長 常田 佐久

宇宙科学研究所は、2003年10月の独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の結成時に宇宙科学研究本部として発足し、2010年4月に現在の名称に改称されました。わが国の宇宙科学研究は、糸川先生のペンシルロケットに始まり、宇宙理学と宇宙工学の研究者の密接な連携のもと、統合前の文部科学省宇宙科学研究所を中心とした全国大学共同利用の活動により、大きく発展してきました。この文部科学省宇宙科学研究所の機能を受け継いだ当研究所は、わが国と世界の飛翔体による宇宙科学の発展に大きな責務を負っております。

宇宙科学研究所の目的は、国内の大学・研究所・諸外国の宇宙機関と協力して、科学衛星・観測ロケット・大気球・国際宇宙ステーションを使用し、特徴あるすぐれた宇宙科学ミッションの立案・開発・飛翔実験・運用を一貫して行い、それによる学術研究を強力に推進することにあります。このために、当研究所には、宇宙の構造と進化を追求するために大気の外に出て観測を行う宇宙物理学、月・惑星・小惑星の構造と起源を探り、太陽系の生い立ち、ひいては生命の起源にも迫る太陽系科学、そしてこれらの挑戦的活動を可能にし、新たな宇宙への可能性を切り開く宇宙工学の研究者がいます。

これまで、当研究所は、これらの宇宙理学と宇宙工学の研究者の密接な連携のもと、「はやぶさ」などの野心的な衛星計画を次々と提案実現し、国際的にも卓越した研究所として高い評価を受けてきました。今後も、所内の5つの研究系による活発な研究活動を基盤として、世界的にもユニークな理工学研究者の連携により、すぐれた科学衛星計画の創成と実現に邁進していきたいと考えています。

2012年度は、水星探査機 Bepi-Colombo MMO、X線天文衛星 ASTRO-H、惑星分光観測衛星 SPRINT-A、ジオスペース探査衛星 ERG の開発がほぼ順調に進められました。さらに、月・惑星探査プログラムグループ（JSPEC）と共同で「はやぶさ2」の開発を、宇宙輸送ミッション本部と共同でイプシロンロケットの開発を推進しています。また、6機の科学衛星の運用を行い、特に、X線天文衛星「すざく」、太陽観測衛星「ひので」は、世界的な成果を上げ続けています。2010年末に金星周回軌道へ投入出来なかった金星探査機「あかつき」は、2015年の金星周回軌道への投入に向けての運用と準備を続けています。また、運用を終了した赤外線天文衛星「あかり」のサーバイデーターの公開を行い、JSPECと協力して「はやぶさ」サンプルのキュレーションとアーカイブを行い、世界中の研究者による「イトカワ」由来の地球外物質の本格的な解析が始まっています。

さらに、観測ロケットや大気球を用いた研究活動・国際宇宙ステーションでの宇宙環境を利用した各種実験も活発に行われ、多くの成果が生まれています。総合研究大学院大学や東京大学をはじめとする大学との連携により、宇宙科学プロジェクトの現場での大学院教育を行い、宇宙開発や宇宙科学の研究開発に携わる後継者の育成に努めています。この年次要覧は、これらの運用中および開発中のプロジェクトの成果と現況・近い将来のプロジェクト候補の検討状況・より萌芽的な研究活動など含めて、2012年度の研究所全体の活動状況をまとめたものです。宇宙科学研究所の活動に対し、これからも皆様方のご理解とご支援、ご指導をお願い申し上げます。

2013年4月